

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に大きく掲げている。また、入居案内にも掲載している。そして管理者は職員全体ミーティング時に浸透を図り、毎朝朝礼時には出席者で唱和している。	事業所内での掲示、朝礼時に出勤者で唱和し、理念を共有している。パンフレットの他、同一法人内のHPIにも法人としての想いが掲載されており、外部への発信も行っている。	HPがあるが法人全体のものとなっており、事業所としてはわかりにくい面があるので、管理者・職員のみならず、地域の方やサービスを希望される方に向けての発信力にも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年は、祭りが再開し地域の方の配慮で2階ベランダから地域のお祭りの様子を見学させていただく。また、散歩や外出時に必ず挨拶を交わして、地域の方とのコミュニケーションを図っている。	コロナウイルスが原因に移行されたが、事業所内でクラスターの発生などで、地域の方を事業所に招くことは行なえていないが、地域の行事などで地域との繋がりを感じられるような交流は行なえている。感染状況に応じてボランティアの方なども招いていきたいと考えている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設が地域介護のステーションになるように努めている。高齢者の家族が相談に来たり、道に迷った高齢者が訪ねてきたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過であり、施設職員のみで開催となっている。他の役員の方には書面での報告となっている。報告内容に対して意見を頂いており、日々の運営に活かしている。	コロナ禍以前は家族や地域住民、市の職員等、複数の方を交えて運営推進会議を行っていたが、感染リスクを考え、現在は職員のみで開催している。開催前には報告内容に対して、意見をいただき、対面での会議ではなくとも可能な限り意見を反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	業務運営などについて、市に相談し助言や指示を頂いたり、研修会開催の案内やお知らせ等の協力を得られるようにしている。	市とは、運営やサービスの相談など問題解決に向け協力を得ている。研修会の開催など情報を共有し、連携を深めていきたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険回避、安全確保の為に実施しようとする行為が身体拘束に当てはまらないか、職員間で話し合いながら取り組んでいる。	身体拘束に関しての正しい知識の確認の他、身体拘束・虐待防止委員会を定期的に開催し、日々の業務の振り返りを行っている。また、年に2回、外部の講師を招き研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を設置し、3か月に1回、また、何かあれば職員間で話し合いを持ち虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で周知し、必要のあるご利用者に対しては市や社会福祉協議会へ相談し対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には必ず2名の職員で立ち合い、口頭と文書にて説明を行っている。説明の途中で質問等がないか随時確認をしながら、利用者や家族に理解・納得をしていただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からの対話やコミュニケーションを大切にし、意見しやすいような関係作りを心掛けている。意見や要望を伺い、運営に反映させるように努めている。	面会の他、受診時にご家族に受診を一緒に付き添ってもらうことがあり、そういった際に普段の様子をお伝えしている。その際に様々なご意見をいただき、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に1回の全体会議、また、何かあればその都度職員から意見や提案がないか確認している。一人ひとりの考えを聞き取り、可能なことから業務改善に取り組むようにしている。	管理者とケアマネジャーが全体会議や個別で意見がある場合には聞き取りをする機会を設けている。物品の購入などすぐに対応することが難しい事を除き、できる限り意見を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自発的且つ能動的な就業意識を抱けるような職場環境づくりを目指している。勤務状況を把握するとともに、事業所内の行事や会議、内外の研修会の出席意欲等を確認して給与の支給額に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人の看護師を講師に招いて勉強会を開いたり、また、一人ひとりのレベルにあった研修を設定し、勤務調整を行って受講する機会を設け、個別のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ過から定期的には集まることはないが、何かあれば相談・情報交換をして事業所内に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、事前に入居先の病院や自宅を訪問し、本人・家族と面談して、本人の不安や要望を聴くようにしている。可能であれば本人・家族に施設へ訪問していただくように努めている。(コロナ過の為、施設内の見学は行っていない。)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に不安や要望を聴くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その段階で必要と思われる福祉用具等の選択を介護ショップの担当者へ相談したり、遠方で暮らす家族に代わり定期受診や体調不良時に付き添い介助を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の興味のあることを把握し、共に実践することで良い関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の現状を家族へ随時報告している。本人の希望時には自宅へ電話をして家族の声を聞いて安心していただいたり、家族からご本人に電話をしていただいたり、家族の理解と協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過の為、自由な面会や外出は行っていないが、事務所出入り口での面会や受診介助等で家族対応は行っていたりしている。	ご家族以外にも近所の方との交流が続いたり、また、その方から入居されているその他の方に対してプレゼントをいただいたり、ただ、馴染の方との関係が続くだけではなく、地域のコミュニティーの場としても機能している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、席順等に配慮し、リビングでは話しやすい雰囲気作りを心掛けている。食事やおやつ時には利用者間で誘いあったり、事故のないように見守りをし、関係性を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても家族とは地域住民としての関わり等で関係を維持できるようにしている。また、退去の事務手続きの際には、今後も必要時にはいつでも相談に応じる旨伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の入院先の病院や自宅へ訪問して、本人・家族との面談により情報収集して、希望や意欲の把握に努めている。	入居前の面談を通じて、情報収集や希望する生活などの聞き取りをしている。意思表示が難しい方もいるため、ご本人、ご家族との面談の機会を設けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の家族との面談や、それまでの担当のケアマネやワーカーから生活歴や生活環境等の状況を聞いて、その把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の身体状況については、朝・夕と一日2回のバイタル測定値を基準にして把握するようにしている。また、責任担当制を導入し、担当者が個別に心身機能の状態の変化に留意し、一人ひとりの現状把握をしている。そして状態の変化を察知したら、ケースカンファ開いて、他の職員に周知し情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者・ケアマネ・計画作成者・担当者・本人・家族・訪問看護・福祉用具専門員等、多職種での連携に心掛けて介護計画書を作成、定期的にモニタリングを実施している。	計画作成にあたり、日頃から多職種から意見などを聞き取り、また、ご本人、ご家族の意向をできるだけ組み込んで介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの内容を一人ひとり個別に記録し、業務の引継ぎ時の申し送りを通して職員間で情報を共有している。そして変化があった際にはケースカンファレンスを行い、その後のケアに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ過にあっても家族の面会や受診時の付き添い等、柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによる話相手や手作りの小物プレゼント、お祭りへの間接的な参加など協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時に本人・家族の希望を確認後、強力病院の専門医やかかりつけ医に相談して指示を仰いだり、職員が家族に代わり受診に同行している。また、市立病院の訪問看護や訪問診療を定期的に受けて健康管理を行っている。	かかりつけ医や協力病院以外にもご本人の状態に合わせ、専門医に受診することもある。また、その際にはご家族に同行していただく事もあり、ご利用者の日頃の様子を含め、受診結果についてもお伝えしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた精神面や身体機能の変化を普段から記録に残して訪問看護に報告・相談している。そしてその後のケアの方法や受診の必要性の有無を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際にはホームでの普段の生活状況を情報提供したり、現状把握に努めるようにしている。近隣の医療機関の医師や看護師、ワーカーとは普段から気軽に相談できる関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化する前に日々の観察から本人の異変に気づき、家族へ報告・説明してから、連携医療機関や訪問看護へ相談して指示を仰ぎ、受診するようにしている。また、週末を迎える前に主治医・連携医療機関のバックアップをいただきながら、本人・家族の意向に添うようにしている。	月に2回の訪問看護や訪問診療があり、医療のバックアップ体制が十分に構築されている。ご利用者の状態変化があった際にも都度、ご家族へは説明し、また、日頃の様子は受診時、面会時を通じてお知らせしている。事業所で看取るケースは少ないが、協力施設と連携し、重度化した際にも安心して過ごせるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥・窒息・急変時に備えて看護師よりレクチャーを受けたり、リスクの高い利用者に対しては職員全体で注意を払うことができるように体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを整備し災害時に備えて定期的に避難訓練を実施したり、管理者サイドのミーティング時にはその都度災害時の対応について話あっている。また、近所の方との普段からの関係性を大事にしている。	火災を想定した避難訓練の他、事業所が海から近いことから津波を想定した訓練も定期的実施している。以前は消防署職員を交え、避難訓練をしていたが、現在は感染症予防の観点から自主訓練としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者と同じ目線に合わせて会話することを方針とし、それを実践できているのか、行き届かない対応が見られた場合は管理者が注意し、一人ひとりを尊重しふさわしい対応に心掛けている。	管理者による声掛け以外にも、接遇マナーの研修を同一法人のスタッフを講師として招き、定期的に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から本人の思いや希望を気軽に話せるような雰囲気作りに心がけ、本人の思いを聞き取るように努めている。本人が自己決定ができない場合は必ず本人に説明してから取り組むようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ一人ひとりのペースや好みを大切にすることを心掛けている。本人の意思を確認しながら、その日その日の日程を職員がたて、本人に説明してから取り込むように配慮するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の利用者には、身だしなみを整えたり、洋服を自分で選ぶように、男性の利用者には、自身の電気カミソリで髭剃りを働きかけている。また、離床して利用者同士が顔を合わせずする食堂等に移動する前に身だしなみに配慮するようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は好みや嗜好を配慮し、できるだけ要望に応じている。食事の片づけ等、可能な方は職員と一緒にやっている。旬の食材を使って料理したり、各季節の行事に合わせたメニューを提供している。	一人ひとりができることを役割として持ってもらうことで職員や他者との関係づくりの機会を設ける事を大切にしたり、栄養関係のキャリアがある理事長自ら献立を考え、添加物の少ない物などご利用者にとって食の楽しさを提供するだけでなく、健康にも気を使われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量はその都度把握し記録に残し、摂取状況に合わせて補うようにしている。体調や嚥下の状態に合わせて粥・刻み・ミキサー等調整して対応している。入居前の面接で本人・家族より好き嫌いを聞き取りしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを行っている。自主的な方もいるが、一部介助、全介助で行っている。義歯を使用している方については、職員が夕食後に洗浄剤を使用し洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄をこまめに記録して排泄パターンや尿意を把握できるように努めている。自主的にトイレに行かない利用者は、一定の間隔で時間誘導している。車椅子使用の立位保持が困難な方は二人対応で支援している。	ケースカンファレンスなどで日々の排泄ケアの方法や排泄リズムの情報を共有し、トイレでの排泄を促す取り組みをしている。オムツを装着している方も安全にトイレで排泄できるように二人で対応するなど排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・おやつ時に水分摂取、日頃から多めに摂取するように声かけしたり、食物繊維の多い食品や乳製品を提供している。便秘の方については、主治医より指示を仰いでいる屯用の下剤を服用しコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の嫌いな利用者でも週2回は入浴していただき、できるだけ本人に合わせて入浴できるように心掛けている。	入浴が嫌いな方は対応する職員や時間帯を変えて、前向きに入浴できるような取り組みがされている。また、その他のご利用者による声掛け等で、場が和み入浴される事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共有のスペースの照明については、誰もいなくなったことを確認してから消灯するようにし、各居室の照明については、一人ひとりの習慣に合わせて調整するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬・投薬忘れを防止するため、必ず2名の職員で投薬チェックをする等、事故防止に務めている。一人ひとりの内服薬の内容の把握に務め、症状に変化があった際には主治医へ報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んだり、排泄物を入れるための新聞紙を折ること、花の好きな利用者に花瓶に花を活けていただいたり日々の生活に張り合いを持っていただけるように支援している。季節ごとの行事や季節料理を食べていただき季節を感じ楽しんでいただけるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候や身体状況を見ながら、短時間の散歩を実施するように心掛けている。7月にはドライブを実施するが、コロナに集団感染したため、その後はドライブは行っていない。様子を見て再開できるようにしていく。	現在感染症予防の観点から遠くへの外出は控えているが、天気の良い日はほぼ毎日近くの海岸まで散歩をしている。感染症の流行が落ち着けばドライブや外出行事を計画する予定。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族より普段からお金を所持することの希望がある利用者については、家族と施設側との同意の下小銭のみの所持としている。金銭は必要があれば家族に了承をいただき職員が代行で買い物支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は、必ず本人が話せるように繋げている。また、本人が電話をかけたいと言われる時も家族の都合に配慮しながら、なるべく本人の希望に添うように対応している。手紙についても本人・家族で確実にやりとりできるように仲介している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中過ごされることが多い場となっているホール・食堂はこまめに清掃して清潔にすることを心掛けている。また、ホールなどには、季節感を感じさせる装飾を施すなどの工夫をしている。匂いについても換気をしたり、芳香剤やアロマオイルを使用し不快感のないように気をつけている。	ご利用者が過ごされる空間は清潔に保ち、季節を感じられるような掲示物や装飾も行っている。匂いにも配慮がされ、芳香剤やアロマオイルを使用する他、排泄物の匂い除去の為、使用済みの排泄アイテムは新聞紙に包んで捨てるなどの配慮もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファを置いて自由に座っていただけるように配慮している。また、大型テレビを設置して、利用者同士で好きな番組を見て過ごしやすい空間づくりに務めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具等は、すべて本人や家族が用意した物を希望に応じて置いている。入居前の事前の説明時においては、今まで自宅で使用されていた馴染みの物をできるだけ持ちこまれるように家族に伝えている。	自宅で使用していた家具等、居室内に収まり、ご本人が気に入っている物、馴染みのものはできるだけ持ち込んでいただくようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体レベルを考慮した家具の配慮やベットの選定を行い、本人の能力をなるべく活かせるように配慮している。廊下やトイレ・浴室に手すりや安全バーを設置したり、張り紙でトイレの場所等が認識できるように示すなどして、利用者が自立して生活ができる環境づくりに務めている。		